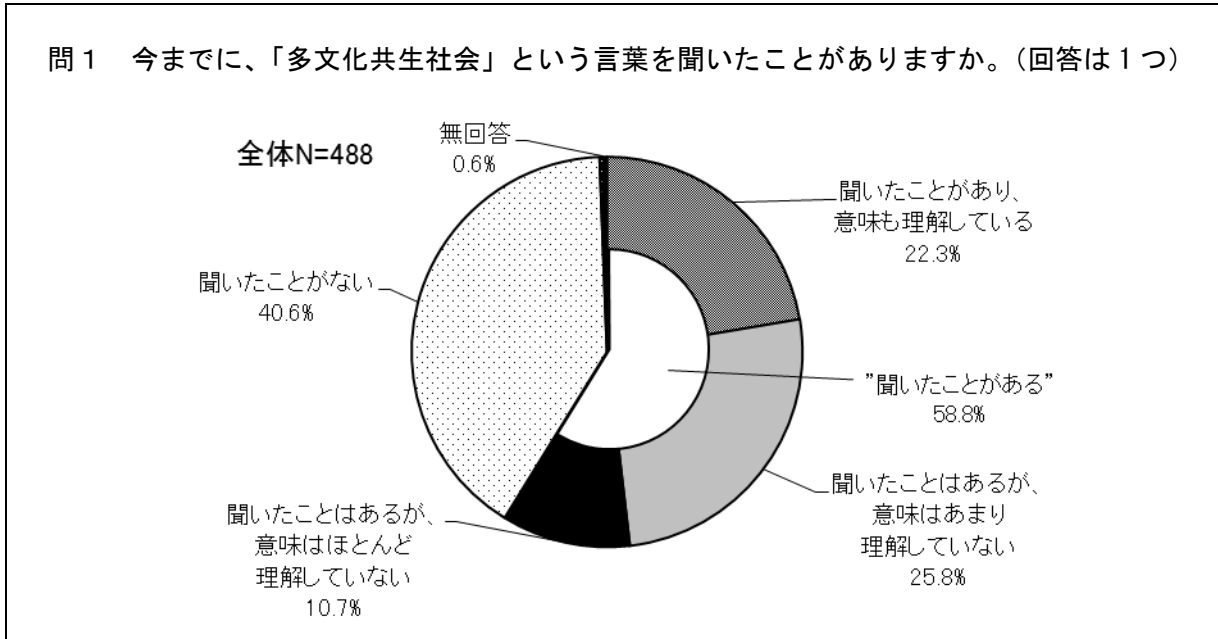
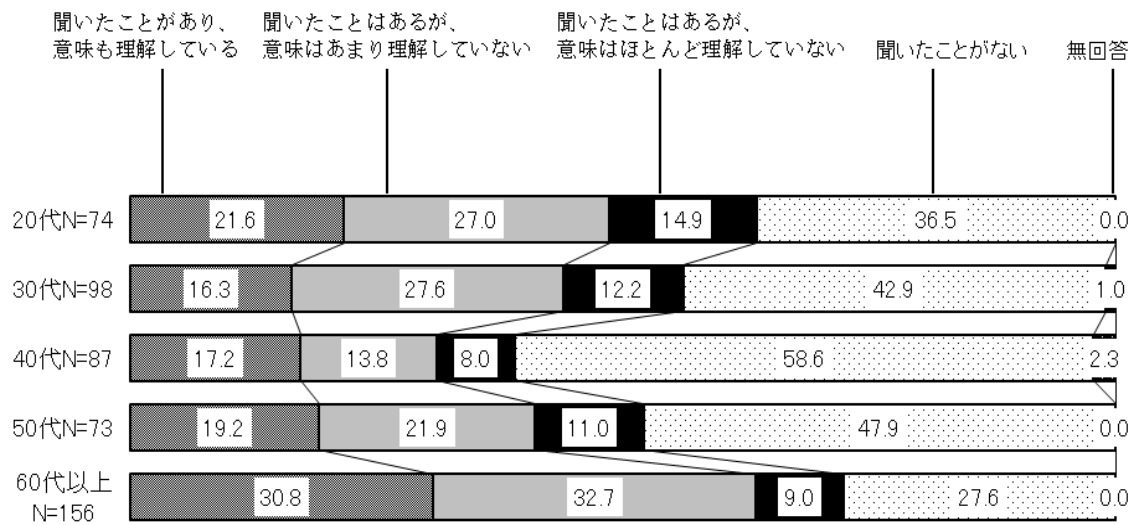


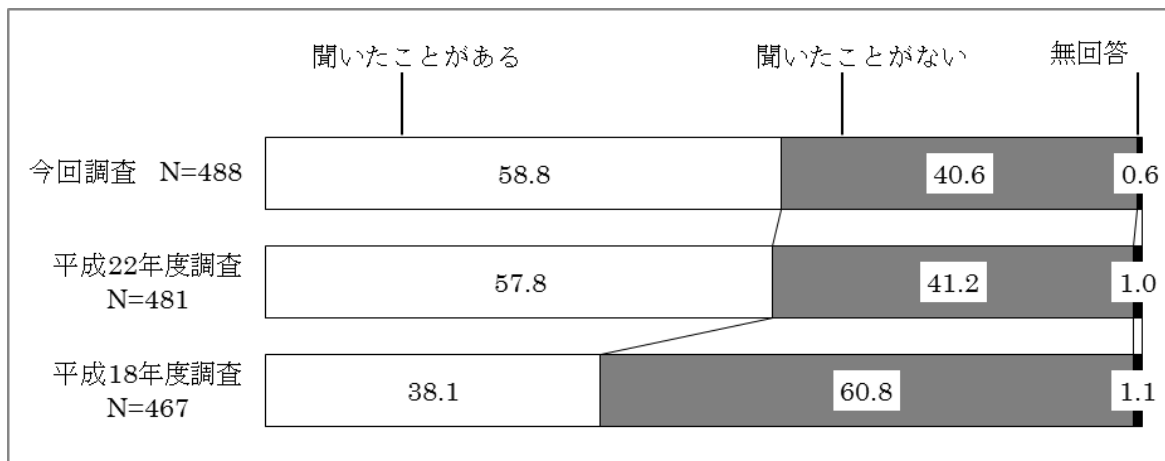
県政モニターアンケート（平成 23 年度第 5 回）調査結果  
（平成 24 年 1 月公表）＜抜粋＞



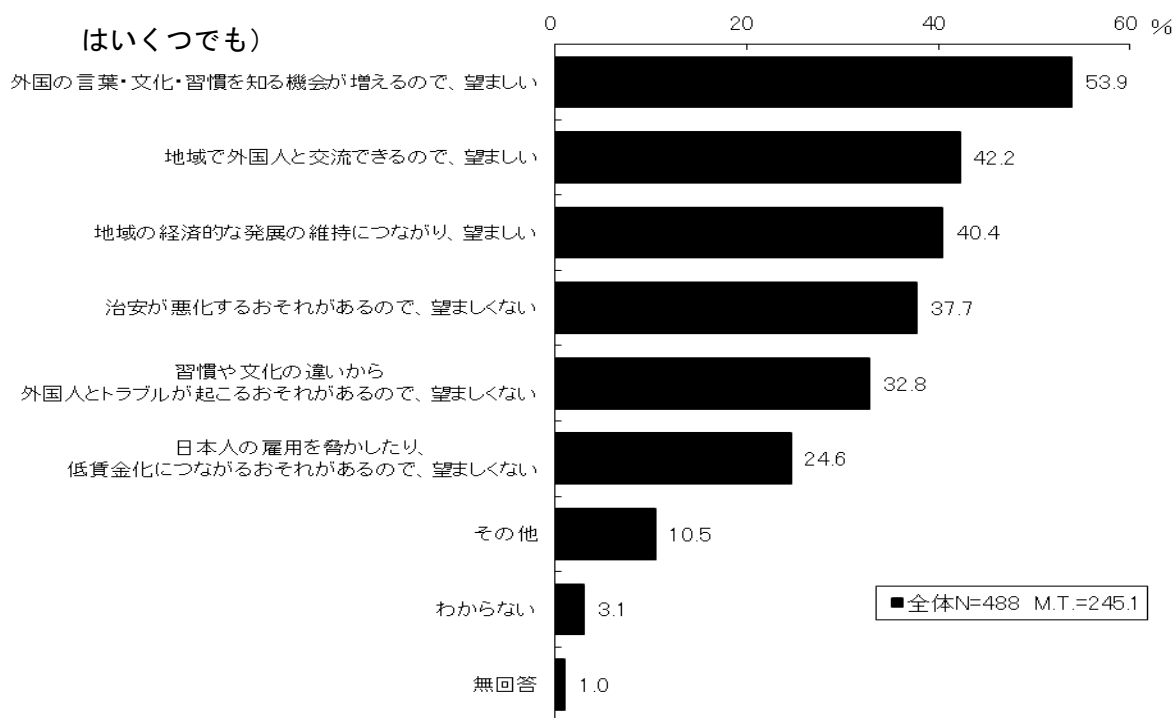
（年代別）



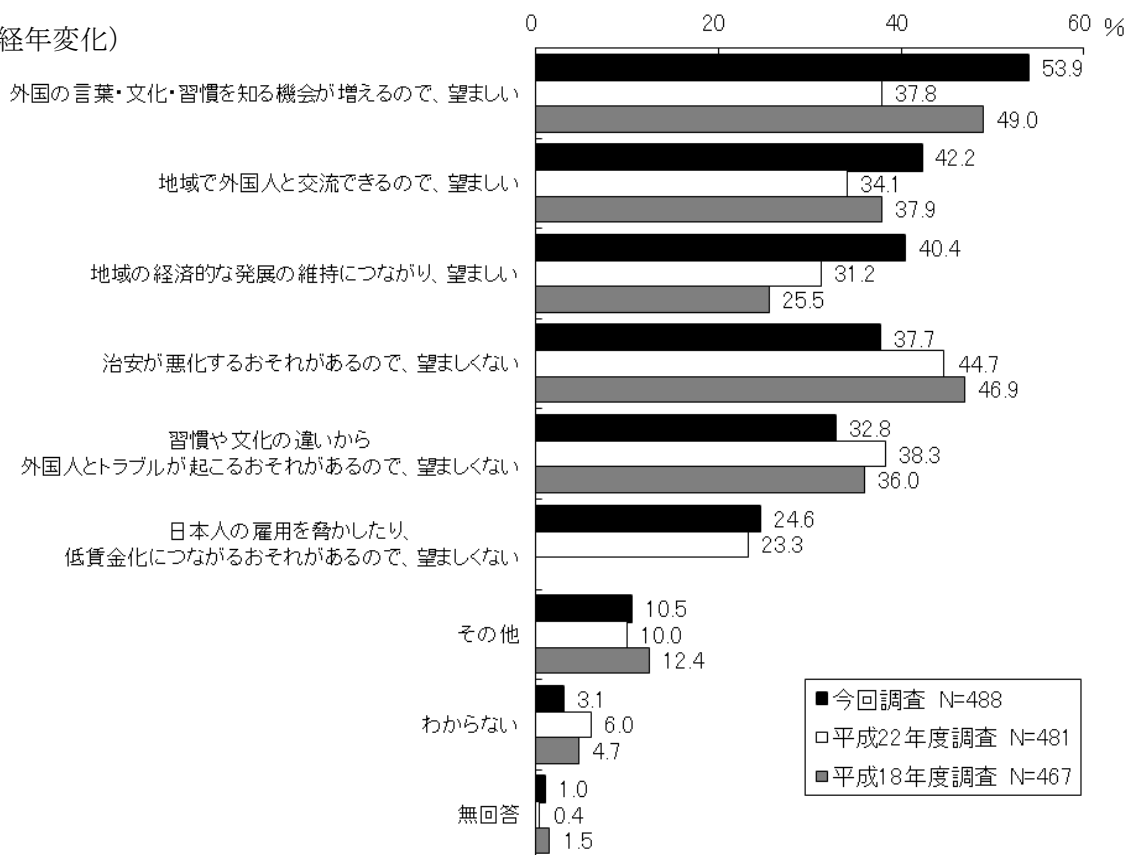
（経年変化）



問2 愛知県に在住している外国人は現在約20万人で、東京都、大阪府に次いで全国で3番目に多い都道府県となっていますが、外国人が多いことについてどう思いますか。(回答はいくつでも)

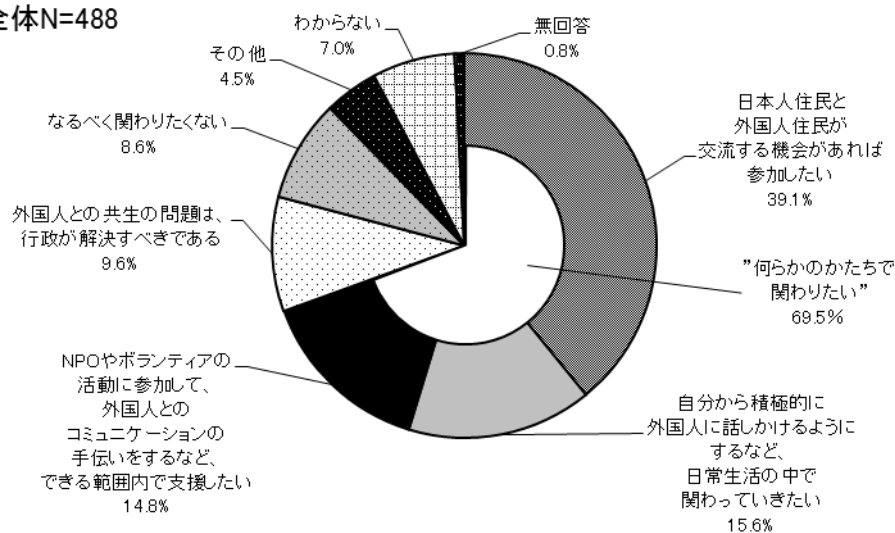


(経年変化)

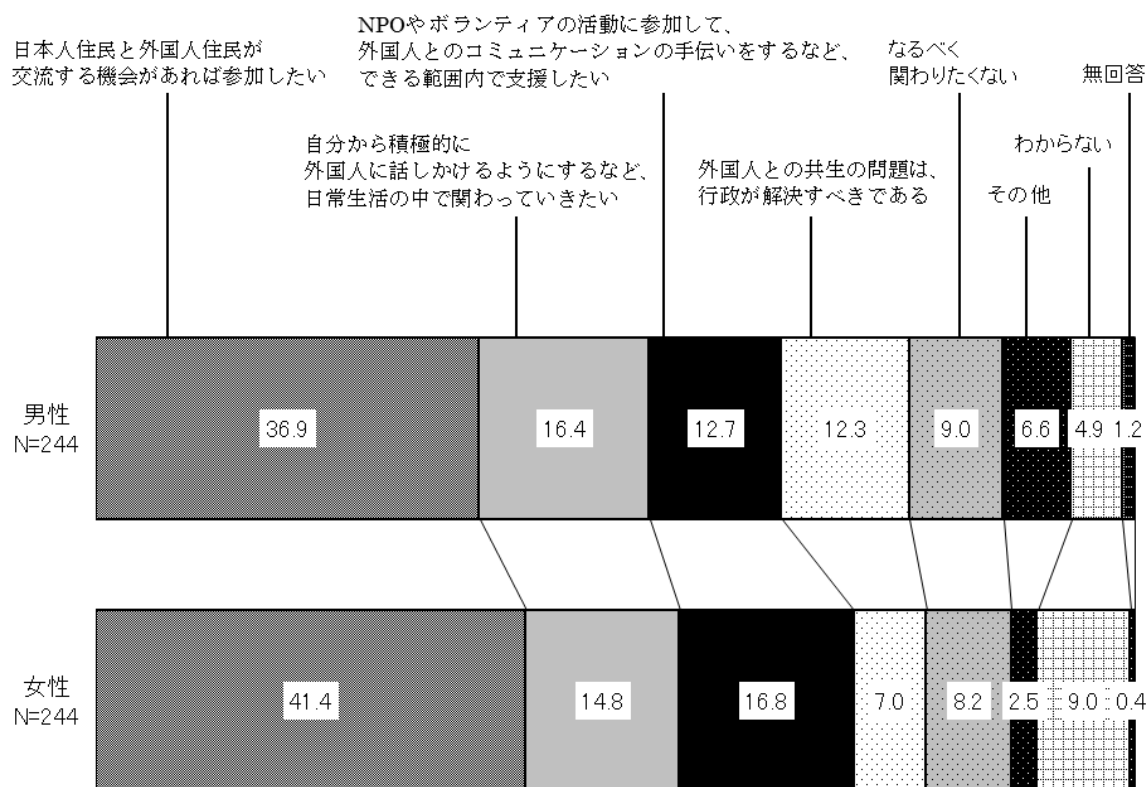


問3 今後、外国人も安心して暮らせ活躍できる地域社会としていくために、あなたはどのようにしたいと思いますか。(回答は1つ)

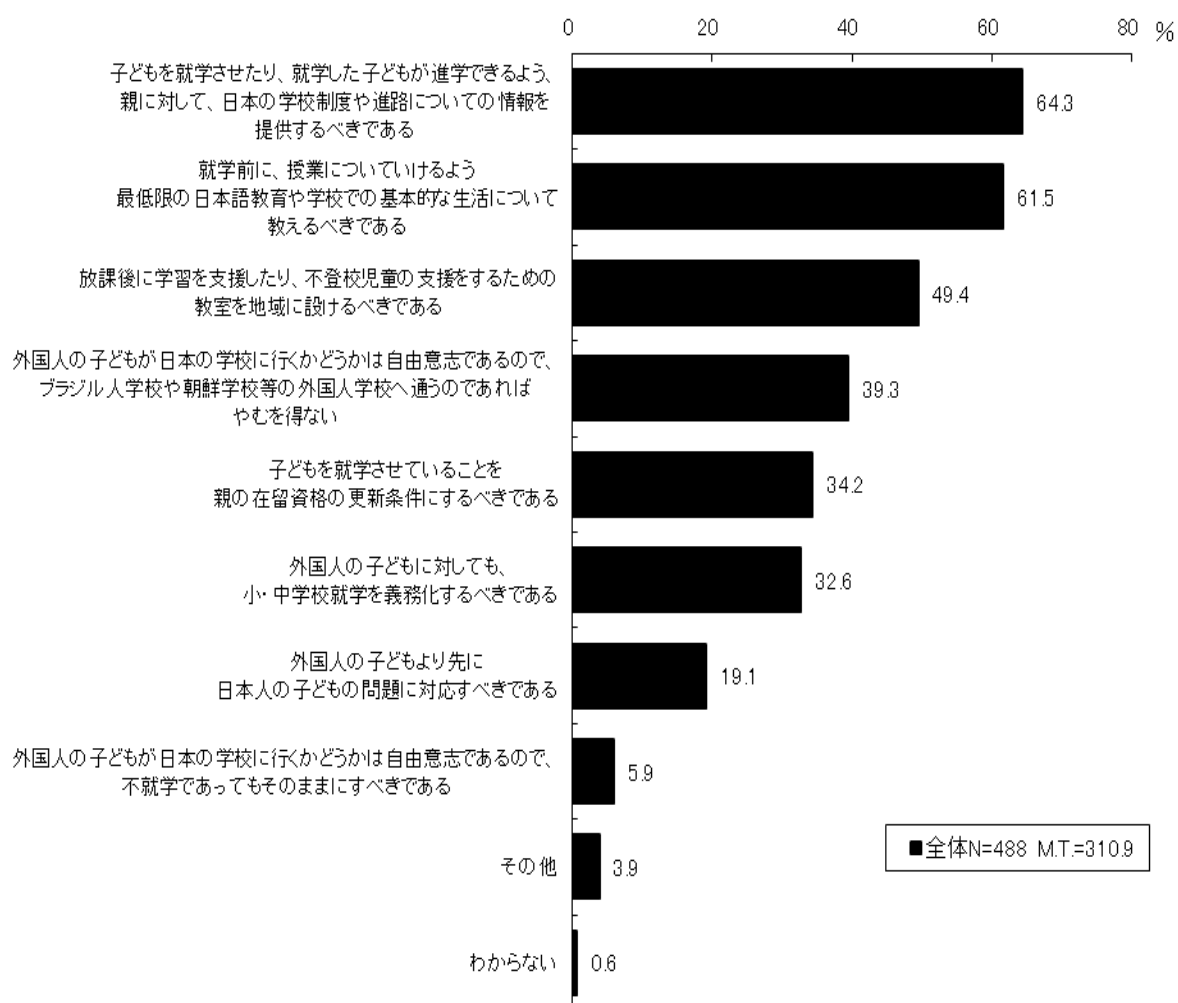
全体N=488



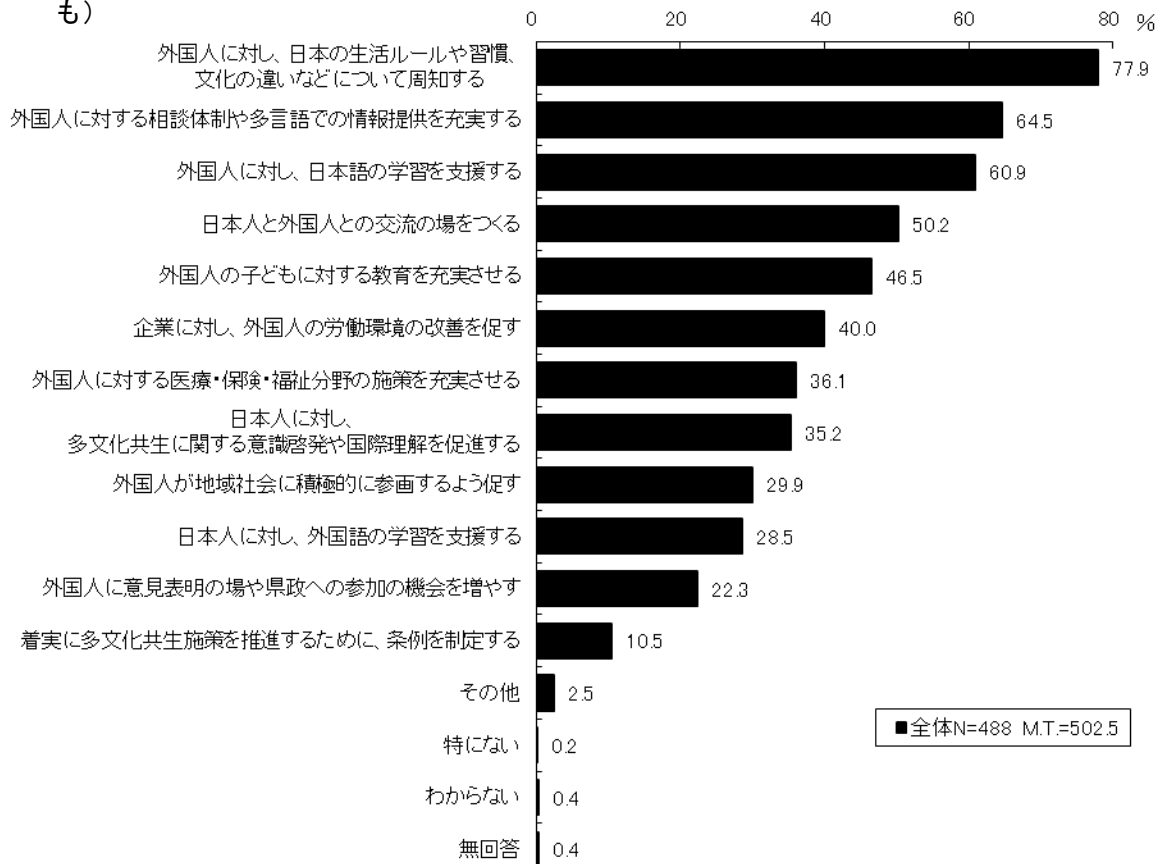
(男女別)



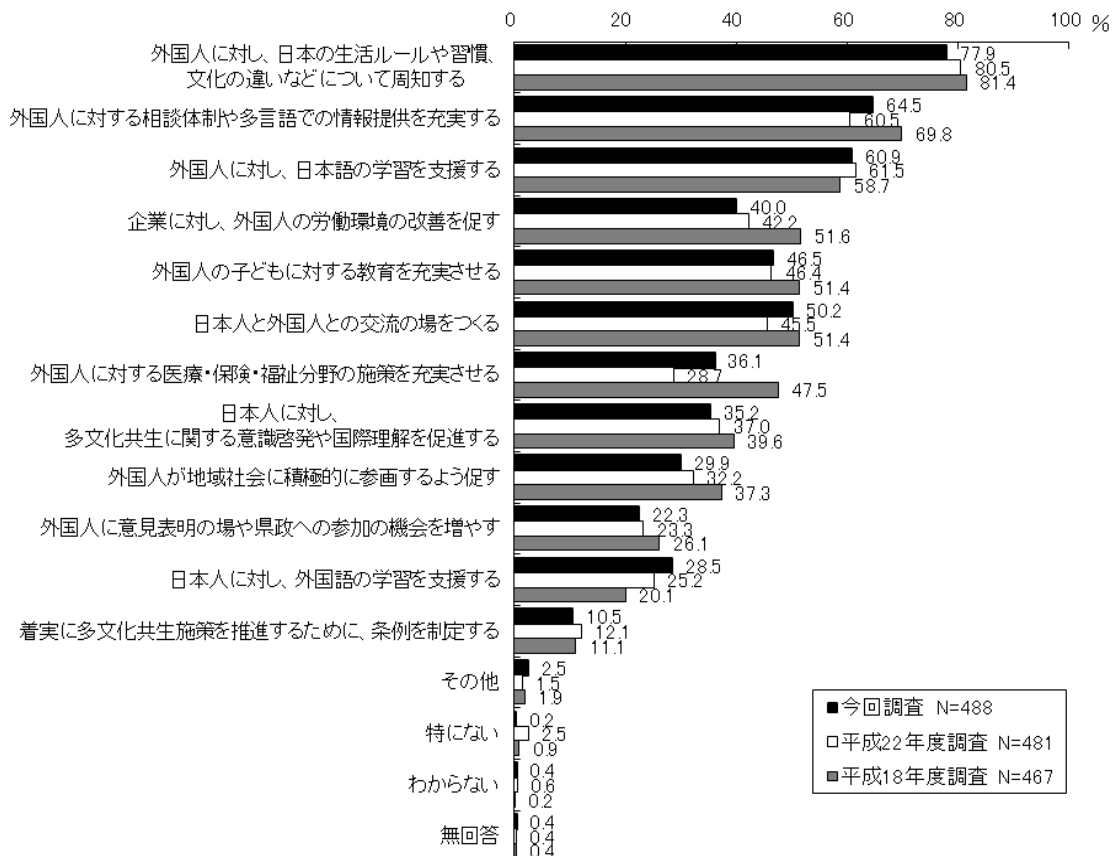
問4 外国人の子どもで、日本の小学校や中学校に通わなかったり、通っていても勉強についていけず、進学できないなどの問題が起きています。こうした問題に対して、あなたは、どう思いますか。(回答はいくつでも)



問5 今後、日本人住民と在住外国人がともに暮らしやすい社会にしていくために、県や市町村など行政は、どのような取組みに力を入れるべきだと思いますか。(回答はいくつでも)



(経年変化)



## 自由記述

### 1 多文化共生推進の必要性について

#### (1) 必要である、やむを得ない

- 「多文化共生社会」という言葉を初めて聞いた。もっと、ニュースや広報誌等で特集を組むなどして、広く県民に知らせる機会を設けるとよいと思う。
- 多文化共生社会は地域活性化のみならず国内の人材育成にも繋がると思う。
- 日本の少子高齢化を考えると多文化共生社会は歓迎すべきである。ただ、受け入れる外国人には日本人をよく理解してもらう必要がある。世界のよいところは取り入れながら、世界のモデルとなるよう、取り組んでいきたい。
- 現在の情報化社会の中では、遅かれ早かれ企業のみならず地域のグローバル化も進んでいき、国際化や多文化共生社会は避けて通れないと思う。愛知県には他県に先駆けてグローバル化を進めて行って欲しいと思う。
- 外国人の割合が高い市町村の問題として考えるのではなく、県内のそれ以外の市町村でも、外国人と多文化共生についてもっと考えていく必要があると思う。

#### (2) 必要でない、不安の方が大きい

- 日本人同士でも交流してないのに外国人との交流など必要に迫られなければ無理だと思う。日本人でも関わりたくない人もいる。誰であっても適度な距離感が必要だろう。
- 外国人は犯罪のイメージが強く、個人的にあまり受け入れられない。
- 治安が悪くなったりトラブルが起こったりするので、外国人をこれ以上受け入れるべきではないと思うし、今は不況で仕事も少なくなっているので本国に帰ってもらうようにするべきだと思う。

### 2 外国人住民への期待について

- 日本人が外国に住む場合でも、外国人が日本に住む場合でも、受け入れられる側の人が少なくともその国の言語とルールを知っておくことは仲良く生活していくために不可欠だと思う。
- 外国人の人達に日本の生活ルールや文化などを理解してもらうことはとても大切なことだと思う。日本の良さを理解していただきたいと思う。
- 外国人が増えて治安が悪くなっている団地があり、困っていると聞くが、外国人には日本で住むための最低の文化・習慣を教えるべきだと思う。日本の習慣や文化を知らないで生活するというのは外国人にとっても苦痛ではないか。
- 長く生活するつもりであれば、日本のことをよく知ってから来て欲しいし、日本語も早く覚えて欲しい。知らないことがあっても、近くの人や地域の人たちに尋ねれば、みんな親切に対応してくれると思うので、早く日本に溶け込めると思う。
- 地域の祭りなどの催しに外国人が参加するのも心に残り、良い影響があると思う。

### 3 日本人住民が外国人住民との共生のためにできることについて

- ものづくりを主体とした中京地区は、国内でもかなり国際化に力を入れてきたのではないかと。ただ、それを受け入れる県民のレベルがついていっていないのではないかと思う。
- 愛知県に在住している外国人は多く、日常でもよく見かける。外国の言葉や文化・習慣を知る機会が増えるので望ましいと思う反面、犯罪などが多く起きていることも確かなので、迷う気持ちもある。しかし、多文化共生社会を目指して自分にできることがあれば積極的に参加していきたい。
- 日本人が外国人を差別せず、共に地域で生きる地域づくりを実現するためには日本人の意識改革が必要だと思う。外国人の文化・技術・特色を生かすことができれば外国人が定着し慣れ親しむ事ができるのではないか。
- 外国人、日本人はお互いが相手をよく知らないために、怖がっている面があると思う。無理のないよう急がず時間をかけて、触れ合うことのできる場所を設けていくことが大切だと思う。また、外国人だからといって特別視してはいけないとも思う。

### 8 外国人の子どものための取組について

- 学校に通わない外国人の子どもがいるというのは非常に大きな問題であると思う。不就学は治安の悪化につながるおそれがあるのではないかと。日本にいるなら日本の子どもたちと同じように学校に通うべきだと思うので、子どもの就学は親の在留資格の条件にするべきだと思う。
- 外国人、日本人にかかわらず、教育は大切だと思う。特に小さい時の教育は大事だと思う反面、親が育った環境の違いはなかなか難しいと思う。親が日本語を理解できないので、小学校の子供のプリントが読めない、提出物が難しいなど、現場は大変だと思う。
- 外国人の子ども不就学は、将来的に治安の悪化につながる可能性がある。日本人と同じ環境で、障害なく勉強することが、共生の第一歩である。
- 犯罪やトラブルを抑制するためにも、外国人の子どもが何らかの形で「教育」を受けるべきだと思う。
- 外国人労働者が増え、保育園や小学校へ入る子どもの数も増える中で、外国人の子どもたちがスムーズに日本の学校に慣れる事ができるよう、対応する教員の数も増やした方がよいと思う。

### 9 国際化・多文化共生推進に向けた具体的な取組について

- 国際化や多文化共生社会について、意識していない人が多いと思うので、そういった人にこの問題について考えてもらう機会とするセミナーや講演会などの場があれば意識も高まるのではないかと。
- ブラジル人の集住地区で犯罪が多いとのうわさが広がったり、外国人住民が日本語を話すことができなったりすることが、外国人と日本人の共生に不安をおおっているのだと思う。外国人住民がどのような活躍をしているかや、ポルトガル語、英語、中国語等を公立学校教育で少しでも取り入れると不安が緩和されると思う。

- 役所でのサービスが外国人には優しくないと思う。外国語対応できる職員が少なく、外国人に発行する保険証や通知などが日本語表記だけなのはとても不便だと思う。もう少し外国人の立場にたって分かりやすいように改善すべき。
- 街中の案内表示、広報誌、各種申請用紙やそれを扱う職員など、身の回りのほとんどが日本語での表記・案内となっている。ハード面での目に見える変化があれば、自然と愛知県を訪れたり滞在したりする外国人も増え、県民の多文化共生に対する意識も養われていくのではないか。
- 国際化や多文化共生の推進には、言葉がネックになると思うので、行政、県民、企業が協力してこの課題を解決する取組を行う必要がある。
- 外国人の多いエリアには、外国人対応の職員を配置すれば日本人、外国人でも相談でき、その場での問題解決がお互いの交流につながっていくのではないか。現状は日本人が避けているように思われるので、行政による橋渡しが必要だと思う。
- 万博の時、外国人を身近に感じた。少子高齢化社会で経済的な発展をするには、外国人と共生するしか道はないと思うので、国際交流施設を各市町村に設置して、共感してくれる人を増やすとよいと思う。
- 国際色豊かな愛知県は、既に日本人のためだけの県ではなく、海外から来た人たちのための県でもあると思う。海外から来た人たちが、日本語などでスムーズに愛知県で生活できるよう、特に教育分野などにおいて行政の支援が必要になると思う。

## 10 国際化・多文化共生推進以外の取組の必要性について

- 経済力が落ちている中、グローバル化の推進よりも県民の雇用を守り、人材を育成する事業に予算を回して欲しい。
- 世界中でグローバル化が進んでいるため、日本も愛知県も更なるグローバル化を推進させる必要性は理解できるが、現在の雇用状況を鑑みると、まずは若年者の雇用を確保し、国内の地盤を強化することが先決ではないかと思う。

## 11 その他

- 県内に在住外国人が20万人もいるとは知らなかった。
- 自分の周辺には外国人が少ないため、多文化共生に対する認識はこれまであまりなかった。
- 入手可能なら、一度「あいち多文化共生プラン」を読んでみたい。